



ハツシモ

粒が大きく艶やか、見事な食感 大規模農業で育てる 西美濃のブランド米「ハツシモ」

岐阜の自然に育まれる農産物と生産農家をシリーズで紹介する3回目は、西美濃のブランド米、「ハツシモ」です。初めて霜が降りるころに収穫される晩成品種「ハツシモ」。長良川、揖斐川、木曾川の清流が潤す肥沃な土地に育ち、あざりとした食感と濁りのない艶やかな見た目、粒の大きさが特徴です。海津市で大規模農業を営む福江宮農を訪ね、米作りや新しい農業への展望を聞きました。



海津市海津町 後藤昌宏さん



透き通るほど美しい「ハツシモ」

米、小麦、大豆の 2年3作体系を築く

「もともとのあたりは低湿地帯。水田の周囲を掘って積み上げた「堀田」と呼ばれる水田で昔の人は苦労して米作りを行っていました。米作りに適していたとはいえない土地で、半分は水路だったね」と話す有限会社福江宮農の代表取締役後藤昌宏さん（56）。

昭和20～40年代に行われた排水施設整備と、昭和50年ころから始まった長良川用水事業で海津の農業が大きく変化。長い苦難の時代を経て、現在では県下有数の水田地帯になりました。福江宮農はそんな海津で後藤さんの父である先代が昭和58年、水田作業の受託を行う営農組合として設立しました。

「最初は田植えや稲刈りの作業受託が多かった。大きかったのは平成19年から実施された農林水産省の品目横断的経営安定対策で、作業受託の農地をJAさんに協力いただきながら利用権設定できたことやね」と当時を振り返ります。地域の信頼を得ながら規模を拡大し、平成4年に法人化。現在の大規模経営の基礎を築きました。

その後もJAと連携して農地利用権の設定と米作り作業の受託を進め、経営規模をさらに拡大。現在の経営面積は340ヘクタール（東京都ム72個分）と県下最大規模に。「農地集積により大型機械整備による作業が可能となり、作業効率が3～4割アップ。労働時間も減ったので、苦労よりメリットの方が大きい。でも草刈りは大変やね」と苦笑いす。

米のみの栽培から、米・小麦・大豆の2年3作の輪作体系を確立したことで作業の平準化が図れ、収穫量・品質を維持しつつ安定した経営を行えるようになりました。

「従業員は17人。農作業をしている10人は全員正社員で、収入も安定しているから会社に勤めたと思うてもらえたいです。福江宮農では、農業は重労働で収入が不安定というイメージとは無縁の新たな農業スタイルを実現。平成19年度には、大規模でありながら

農業の削減や有機肥料の導入に積極的
に取り組んできた点が評価され「第36
回日本農業賞」個別経営の部で大賞受
賞、第46回農林水産祭では天皇杯受
賞の栄誉に浴しました。

「おいしかった」の声

「ハツシモ」の特徴は粒が大きく、見た目が艶やかなこと。「晩生の品種で、登熟の時期が夏の暑い時期からずれるので、品質的にいいものができる。白く濁ったものが無くて、見た目がきれい。全部透き通った透明な米で、あざりとした食感やね」と後藤さん。きれいな水も米作りには重要な要素。「これも長良川の水質が良いことが大きい」と岐阜の恵みを実感する毎日です。

「ハツシモ」の良さがクチコミで広がって、まとめて買っていた方が増えてうれし。こだわって作っていることが報われる気持ちがあります」と話すように、消費者の「おいしい」の声を直接聞けることは米作りの大きな喜びです。

更に効率的な IT農業を目指す

「ハツシモ」を広く知ってもらうためには、品質をそろえ安定させることも重要な仕事の一つです。「大豆や麦もその協力をしてくれないといけません。JAさんの指導や資金協力を受けながら皆で頑張ります」と海津の米作りを牽引します。

これからの目標は「経営面積400ヘクタール」と後藤さん。IT農業も推進したい。「スマートフォンを使って水田を管理できるので、積極的に導入して更に効率化を進めたい。これからは消費者の皆さんに喜んでいただける米作りを続けていきたいと思っています」

本広告に関するご意見や
ご感想をお聞かせください。
抽選で「木曾三川ハツシモ」を
プレゼント!



※岐阜県のみで栽培されているため、
県外では幻の米と呼ばれています。梅雨
を過ぎても食味の低下が非常に少なく、
年間を通して品質・食味が安定していま
す。コシヒカリよりも粘りは少なめで、歯ご
たえがあり、どんな料理にも馴染みます。

- ①郵便番号・住所②氏名③電話番号
④紙面に関するご意見を明記して下記
の方法でお申し込みください。

【はがき】〒500-8577 (住所不要)
岐阜新聞 広告局
「ぎふの農業人」係
※個人情報保護法に基づき、本誌において
使用し、適正に管理します。
※当選者の発表は、賞品の発送
(翌月予定)をもってさせていただきます。

1月20日(金)
必着



品質管理にも余念がない



土を耕す大型農機



JAにしみの組合長 小林徹氏から

JAにしみの管内は濃尾平野の西南部に位置し、木曾・長良・揖斐の河川に囲まれ、西に養老山脈と雲峰伊吹山を仰ぐ肥沃な穀倉地帯です。かつては水稲単作の地域でしたが、近年、ほ場整備、大型機械化などにより水田の汎用化が進み、米、麦、大豆とも県下1位の生産高です。
大切な農地を守るため集積事業を通して農地の大規模化を進め、営農指導事業とアグリサポート資金の融資などJAバンク事業とを連動させて地域農業の発展に尽くします。JAにしみのは安心・安全、品質にこだわった農産物作りを通して、これからも農業と皆様の暮らしに貢献して参ります。



耕そう、大地と地域の未来。

実りの秋に大地の恵みと愛情たっぷりで育った
岐阜県を代表するブランド米、ハツシモ

生産者のこだわりが詰まった一品を届けたい。
地域の一人として地域の未来を見守るJA



JAぎふ / JAにしみの / JAいび川 / JAめぐみの / JAとうと / JAひがしみの / JAひだ
— 岐阜県下JAは農業のメインバンクです —